

科目名	一般教養C1							年度	2025
英語科目名								学期	前期
学科・学年	放送芸術科 1年次	必/選	選	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	石田桃子		教員の実務経験		なし	実務経験の職種			
【科目の目的】 「著作権」を受講する学生は、様々なコンテンツを利用して新たなコンテンツを作り出す学科の学生として、著作権を理解し法的に正しく著作物利用できるよう学習する。									
【科目の概要】 「著作権」では検定試験合格を目標とするため、学習と練習問題を繰り返す。また、自分の身近な事項に置き換えて考えるワークをする事により、実践的な理解を深める。									
【到達目標】 「著作権」では、多くの著作物に触れ、または創り出す学生が、著作物の定義や著作権法を広く正しく理解し、自ら判断が出来るスキルを身に付ける。 資格取得に於いては、「ビジネス著作検定BASIC」に全員合格する事が目標。									
【授業の注意点】 この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。また、自ら考え発表する事を重視するため、積極的な発言を促す。 但し、授業に関係の無い私語、ルールに反した参加態度が見受けられた際には厳しく対処する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている			レベル3 ふつう				レベル1 要努力	
到達目標 A 著作権の概念	著作権法を侵害する考えもなく、正しい理解の元、行動も問題ない			悪意はなく、ある程度の正しい行動を取ることができる				時として違法行為の可能性がある	
到達目標 B 著作物の権利	正しい知識の元、合法的な著作物の使用と、正しい映像制作ができる			基本的に順守すべき権利を理解している				知識がおぼつかない	
到達目標 C 著作隣接権の理解	実演家やその他利害関係者とトラブルを最小限に権利処理できる			実演家や利害関係者の権利をある程度理解している				実演家や利害関係者の権利を理解していない	
【教科書】									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 期末試験									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									
科目名	一般教養C1							年度	2025
英語表記								学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	著作権を学ぶ意義		著作権を学ぶ意義	著作権は何の為にあり、なぜ学ぶのかを理解する		
2	著作権の概要と目的		著作権の概要と目的	著作権の目的を理解し、「著作者人格権」 「著作財産権」の違いを理解する		
3	著作物の定義と種類		著作物の定義と種類	著作物の基本的な定義を理解し、著作物か 否かの判断を出来るようにする		
4	著作財産権（複製権など）		著作財産権 （複製権など）	著作財産権のうち、複製権、演奏権などの 複製を対象とした権利を理解する		
5	著作財産権（譲渡権など）		著作財産権 （譲渡権など）	著作財産権のうち、譲渡権、頒布権などの 流通を対象とした権利を理解する		
6	著作財産権（翻案権など）		著作財産権 （翻案権など）	著作財産権のうち、翻案権と二次的著作物 を理解する		
7	職務著作		職務著作	職務著作について理解する		
8	著作隣接権・実演家の権利		著作隣接権・ 実演家の権利	主に実演家の権利について学ぶ		
9	著作隣接権・その他の権利		著作隣接権・ その他の権利	放送事業者、レコード製作者の権利を学ぶ		
10	著作物の自由利用①		著作物の自由利用 1	身近な著作物の利用について理解し、正しい 利用ができるようにする①		
11	著作物の自由利用②		著作物の自由利用 2	身近な著作物の利用について理解し、正しい 利用ができるようにする②		
12	著作物の保護期間		著作物の保護期間	保護期間についての概要を学び、著作物に 関する知識を深める		
13	罰則その他の知識		罰則その他の知識	著作権法違反の罰則規定などを理解する		
14	音楽著作権について		音楽著作権について	音楽の著作物について特殊事例も含めて理解		
15	まとめ・復習		まとめ・復習	これまでの総括として全体を再確認する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等